「未来を育む　ひとが輝く　信濃おおまち」を目指して

大町市長　牛越　　徹

　市では、平成18年に３市村が合併してから10年間、第４次総合計画に基づき、「きらり輝くおおまち」を目指し、市民参加と協働のまちづくりを進めてまいりました。その結果、市民の皆様の間に参加と協働の理念が広がるとともに、積極的にまちづくり活動に取り組む市民や団体等が増えてきました。

　一方で、昭和60年頃まで３万５千人を維持しておりました市の人口は２万８千人程となり、今後さらに減少することが見込まれています。また、物の豊かさより心の豊かさが求められるようになり、暮らしの中のゆとりや個々を大切にする生き方が重視されるなど、価値観の多様化が加速しております。そして、経済の国際化に伴う国々の競争激化による地域経済への影響など、激動する時代には、地域社会も大きく変化することが予想されます。

　このように社会情勢が大きく変わる中、これまでの総合計画の理念を継承しつつ、さらに発展させ、市の未来を切り拓いていくのは、まちづくりを担う「ひと」であり、「ひと」を地域にとって最も大切な存在として、新たな第５次総合計画の基本理念に位置付けました。産業をはじめ、福祉、教育、地域活動など様々な分野で活躍し、市の発展を支える「ひと」を育むことを重要な課題とし、市の将来像を「未来を育む ひとが輝く 信濃おおまち」と掲げました。

　この将来像を実現するため、熱意を持って地域の活性化やまちづくり活動に取り組む地域の担い手を育み、地域活力の向上を図りたいと考えております。そして、大町市に住むひとや働くひと全てが輝くことにより、まち全体も輝くことができますよう、総合計画の施策の推進に全力を注いでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

　結びに、計画の策定にあたり、市民意識調査等にご協力いただきました市民の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました大町市総合計画審議会、大町市議会の皆様方に厚くお礼申し上げます。